

多文化共生の先進地、浜松で考える

研究者
実践者から
聞く!

2023

アートを活かした ゆる～いまちづくり

きく・つなぐ・ひろく

9.18 祝・月 13:30～17:15
(受付 13:00～)

アクトシティ浜松

コンGRESSセンター43・44会議室
(浜松市中区板屋町111-1)

アクセスはコチラ



インターカルチュラル・シティ浜松とは

浜松市は2017年にアジアの都市として初めてインターカルチュラル・シティ・ネットワークに加盟しました。インターカルチュラル・シティ(Intercultural Cities)とは、在住外国人や移住者などが持つ文化的多様性を脅威ではなく好機と捉え、まちの活力や革新、創造、成長の源泉とする新しい都市政策の考え方です。このシンポジウムでは、在住外国人への支援ではなく、アート活動や文化芸術を通じた在住外国人との共生の取り組みにより起こった変化等について、海外や日本の都市の先行事例を通じて考えます。

こんな方にオススメ!

移住者受入担当を
している行政職員等

新しい視点で多文化
共生施策を企画したい
国際交流協会職員・
NPO職員等

在住外国人を対象とした
包摂型社会の実現を目指す
文化芸術・文化施設
関係者等

浜松市の多様性を
生かしたまちづくりに
関心のある学生等

登壇者紹介

モデレーター



ミン ジンキョン
関 鎮京
北海道教育大学准教授

パネリスト



みなみだ あけみ
南田 明美
公立大学法人
静岡文化芸術大学講師

パネリスト



やまぐち ゆか
山口 祐香
神戸大学
日本学術振興会特別研究員

パネリスト



ヤン チュンティン
楊 淳婷
東京藝術大学大学院特任助教
立教大学兼任講師

パネリスト



すずき えりか
鈴木 恵梨香
公益財団法人浜松国際交流協会
事業コーディネーター

プログラム

- (1) ICCとは／趣旨説明
- (2) 事例紹介
在住外国人を対象としたアート活動・文化芸術の場を通じた先進事例
～シンガポール、東京、大阪、兵庫、浜松～
- (3) パネルディスカッション
在住外国人・移住者が安心して生活できるアート活動・文化芸術の場を通じたまちづくり
- (4) 情報交換・交流・質問タイム

お申し込みはコチラ



お申し込み <事前申込制>
右記のQRからお申込みください

お申し込み
締切

9/13 水

登壇者についてのプロフィールは裏面へ。➡

主催

浜松多文化創造活動促進事業実行委員会

お問い合わせ

公益財団法人浜松国際交流協会

TEL 053-458-2170 ✉ info@hi-hice.jp

協力



「多文化共生社会の構築に向けた文化政策のパラダイム転換に関する試論」
研究チーム(JSPS KAKENHI Grant Number 23H00588/研究メンバー:関鎮京、南田明美、山口祐香、楊淳婷)
※この事業は科研費の助成を受けて実施するものではありません。

< 登壇者Profile >



ミン ジンキョン

関 鎮京

(北海道教育大学准教授)

韓国ソウル特別市出身。2000年に文化庁海外招聘研修生として来日。東京藝術大学大学院応用音楽学専攻修了(学術博士)。専門は文化政策。在住外国人への差別や排除を生む社会構造の変革に文化政策として取り組むべきことがあると考え、2020年から当事者研究を始める。北海道江別市にて「演劇を通じて作り上げる!当事者による当事者のための草の根共生政策(助成:トヨタ財団)」プロジェクトを実施中。



みなみだ あけみ

南田 明美

(公立大学法人静岡文化芸術大学講師)

1985年、大阪府東大阪市生まれ。専門は、芸術社会学アートマネジメント論/文化政策論。修士課程より、周縁化された人々と共に進むコミュニティ・アートやアウトリーチ活動について、日本とシンガポールを比較しながら研究している。浜松に移住して以降は、有志と共に「ハマルおんがくプロジェクト」を立ち上げ、「多文化共生×音楽」、「多文化共生×アート」に関する理論と実践の往復を行い、どのようにすれば、「芸術を通して皆が憩える広場」を作れるかを考え続けている。



やまくち ゆか

山口 祐香

(神戸大学 日本学術振興会特別研究員)

佐賀県出身。日本人の父と、地元で国際文化交流の市民活動を行う韓国人の母の間に生まれ、日韓関係や文化交流に関心を持つ。2021年九州大学大学院地球社会統合科学府博士課程修了、博士(学術)。専門は、戦後日韓関係史・在日朝鮮人史・市民運動史。日本と朝鮮半島をめぐる様々な「境界」に生きた人々の実践に関心を持ち、九州や関西を主なフィールドに研究を行っている。また、地元・武雄市における多文化共生の政策提言や、「文化のまちづくりデザイン会議」委員なども務めた。



ヤン チュンティン

楊 淳婷

(東京藝術大学大学院特任助教/立教大学兼任講師)

台湾台北市生まれ。博士(学術)。自身の経験から移住や移民、社会とアートの関係性に関心を抱いている。アートプロジェクト「イミグレーション・ミュージアム・東京」の企画統括(2019年度)、東京芸術劇場によるシアター・コーディネーター養成講座《多文化共生・基礎編》の監修(2021年度)や「多文化共生とアートに関するリサーチプログラム」の参与観察(2022年度)など、理論と実践を往還する取り組みに携わっている。



すずき えりか

鈴木 恵梨香

(公益財団法人浜松国際交流協会 事業コーディネーター)

浜松市出身。小中学校時代、外国ルーツの同級生が居る環境で育つ。大学進学した奈良で出会った歴史好きな先輩や友人の影響で、浜松の文化資源やまちづくりに関心を抱く。静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科では、音楽を通じた多文化共生教育について研究。現職では、国際交流・国際理解・多文化共生に関するイベント・講座・Instagramの企画運営や、外国にルーツを持つ定住者系若者グループ「COLORS」活動支援等を担当。アートや文化芸術を通じた多文化共生をテーマに実践中。